

## イスラエル アンヴェールド Vol.2 「ヨッパ」

英語版オリジナル 2018年2月25日公開

Israel Unveiled Vol.2 : Joppa <https://youtu.be/A7lGeEwrJaQ>

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

皆さん、シャローム！おはようございます。古代の町、ヨッパへようこそ。

英語で言うと「Joppa」と、ちょっと変わった名前ですが、ヘブル語では、「ヨッパ」ではなく「ヤッフア」、「美しい」という言葉から来ています。「ヤッフア」も「ヤッフエ」も“美しい”です。地名がこの場所の性質を反映しているのは間違いなく、ここは確かに美しいです。



地中海沿岸に位置する町、地中海に沿ってカイサリアから南へ30マイル（48 km）、旧約・新約聖書時代の、最古の港の一つです。

海辺のカイサリアについてお話する時には、もちろん新約聖書の角度からお話しますが、ここが古代旧約時代の町であることは、間違いありません。

Figure 1 地中海に面した美しい港町ヨッパ

初めて登場したのは、トトメス三世（書記注：古代エジプト第18王朝6代目のファラオ。在位 BC1479 頃～BC1425 頃）の文書で、パロが紀元前15世紀に、ここイスラエルの地まではるばる征服の旅をして来た時の事を書いたものの一つです。つまり、3500年以上前、すでにこの地名が古代エジプトの文書に登場しているのです。ただ、紀元前1500年に書き記されているからといって、これがたった3500年の古さである、という意味ではありません。それよりも、さらにずっと古いのです。しかしここは、3500年前もの文書に書かれるほどに古く、また、それほどに重要だったのです。間違いなく素晴らしい場所で、こんにち、約60,000人がこの町に住み、住民はおもに中東、北アフリカ系の子孫であるユダヤ人です。しかしここには、アラブ人居住者たちの立派なコミュニティも存在します。ここは、こんにちのイスラエルの中に4つある、ユダヤ人とアラブ人の双方が隣り合って平和に暮らしている、混在の町の一つです。エルサレム、ヨッパ、ハイファ、ベエルシェバがそうですが、ヨッパはもちろん、イスラエルの地における共存の象徴です。ところでヨッパは、テルアビブと一緒に、一つの町です。ヨッパとテルアビブは、同じ市長が務めています。実際の名前は「テルアビブ・ヨッパ」で、公式ウェブサイトを見ると、これが市の名前として記載されています。



Figure 2 テルアビブ・ヨッパの公式ウェブサイト

次に、特にこの町について語る時、私たちが忘れてはならないのは、ここは、機能している世界最古の港の一つだということです。つまり、こんにち、ここは漁船のための港ですが、古くは、ソロモンさえも、レバノンから杉を持ち込むのにこの港を使いました。はるかレバノンから海岸沿いに杉を浮かべて、この場所まで持ち込み、そして、ここからエルサレムへ運んで行きました。実際、ここはエルサレムに最も近い港です。ですから、エルサレムとヨッパには、いつも面白い接点があるのです。エルサレムの重要な通りの一つは「ヨッパ・ストリート」と言う名前です。旧市街には「ヨ

「ヨッパ門」があり、ヨッパの重要な通りの一つは「エルサレム・ブルバード」です。この二つの町のつながりがお分かりいただけるでしょうか。

次に、ここは、旧約聖書と新約聖書に書かれている出来事に登場する場所です。

そこで今日、この町で私たちが学ぶのは、この場所における部族の分け前に関してです。

同時に、ある二人の人物について。彼らは、ガリラヤ出身でありながら、最終的には様々な理由があって、ここに到着しました。ということで、今日は部族について、それから、ガリラヤ出身でありながら、最終的にはこの地に到着した、旧約、新約の二人の人物についてお話します。これからお話する部族とは、ダン族のこと。そして、人物とは、預言者ヨナと、ガリラヤ出身の漁師シモン・ペテロです。



Figure 3 ルーベンス画「楽園のアダムとイブ」

まずはじめに、皆さん、思い出してください。

不従順はるか、創世記3章にまでさかのぼって見られるものです。明らかに、人類最大の転落は、単に従順さの欠如です。主の命令に目を向けておくという、実に簡単な従順です。そこで何が起こったかということ、蛇にはそれが見えていて、彼はその場でそこを攻撃したのです。

私たちがここで目にしているのは、基本的にはこうです。

神が簡単な事を要請しました。

ところが、彼らの態度から明確に見えるのは、基本的には、

「あなたの御心ではなく、私の願いどおりにしよう。」

ということです。そこでイエスが、

**42 私の願いではなく、みこころのとおりにしてください。**

(ルカ 22:42b)

と言われたのを見れば、なぜ神は、彼のことをそれほどまでに愛されたのかが分かります。

**5 「これは、わたしの愛する子。」**

(マタイ 17:5)

と神は言われました。

実際、最初の最初に、私たちが神から離れた要素は、——神の臨在からだけではなく、神の愛からも——それは、従順の欠如です。ということは、私たちを、神の臨在と神の愛に戻すものはただ一つ、それは、単純な従順です。イエスが言われたように

「わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

さて、ずっとさかのぼって、ダン族を見てみると、非常に面白い事が分かります。

ダンはやコブの長子で、女奴隷ビルハから生まれました。そして、ダンから生まれたダン族は、後にイスラエルの中でも最大の部族の一つとなります。どうしてそれが分かるのか？それは、民数記1章39節に、ダン族からは、軍務につくことの出来る者が62,700人登録されたと書かれているからです。これは、ユダ族に次い

で2番目に多く、ユダ族の軍務登録者は74,600人です。ですから、イスラエルで2番目に大きな部族であり、ヤコブの長子となれば多くのことを期待するでしょう。これほどのものを相続した人々には、おおきな期待をするものです。果たして、ダンが戦っていたのは、明らかに見てとれます。事実、民数記2章31節を見れば、彼は4つの軍団のうちで最大のものを統率し、人々を守っていたことが分かります。

**31 ダンの宿営に属する、登録された者の総数は、十五万七千六百人。彼らはその旗に従って最後に進まなければならない。**

(民数記2:31)

それからダン族は、最も重要なイスラエルの士師を、少なくとも一人は生み出していることも分かっています。サムソンです。

サムソンの話は、私たち全員が知っています。彼については、ソレクの谷とサムソンの生まれ育った地を訪れる時に、またお話ししますが、彼はソレクの谷を横切って、ペリシテ人の町ティムナに入り、デリラに出会いました。

今は、サムソンの話ではなく、ダン族の重要性についてお話したいと思います。

ダン族には問題がありました。そして、その問題とは、不従順にまでさかのぼります。

神は、部族の割り当てを彼らにお与えになりました。神が皆さんに何かを与えられた時、——ミニストリーであれ、配偶者であれ、子どもであれ——言っておきますが、子供は神から与えられるものです。こちらが選ぶものではありません。

神があなたに、両親や義理の家族をお与えになった時、

神があなたに、教会の人たちや友達をお与えになった時、

神があなたに、富をお与えになった時、

神があなたの人生の中で、非常に多くのものをお与えになった時、

もしそれらが神からのものであれば、大抵それらはあなたに必要なものです。

そしてそれらは、あなたの人生の中の様々な章で、大きな役割を果たします。

私の生い立ちで言えば、私は毎日神に尋ねました。

「どうして私に、こんな父親と母親をお与えになったのですか？」

「どうして私の人生はこうなのですか？」

とか。私が、短い自分の人生から学んだのは、人生の中には、後になってからでなければ分からない事がある。

私たちが振り返ってみて、初めて理解出来ることがあります。

なぜあの時、神はこのような人たち、あのような出来事、あのような状況を、私の人生に与えられたのか。もちろん、私たちが神に従わずして、良くない状況に陥るのは全く別問題で、それは明らかに、神が与えたものではありません。そこで私たちは結果に苦しみますが、ダン族は領土を与えられていました。私はいつも言うのですが、彼らに与えられた領土が、現在中東で最も高価な場所であることを彼らが知っていたら。彼らがただ、それを知ってさえいれば。しかし当然、彼らは知りませんでした。では彼らは何を知っていたのか？彼らはただ、状況を通してでしか物事を見ていませんでした。しかし状況に頼り、状況によってあなたの人生における神の御心を理解しようとするのは、恐らく最も危険な事だと言って良いでしょう。なぜなら、状況は状況でしかないのですから。これからそれについて見ていきますが、使徒たちでさえ、彼らが置かれた状況を見れば、——彼らが、「神が、我々の死を望んでいる」と信じなかったことを神に感謝しますよ。

ただ、考えてみてください。

ダン族の置かれた場所は、西に地中海、南にペリシテ人、東にはユダ族、北にベニヤミン族。



Figure 4 ダン族の割り当て地  
(深緑色の所)

彼らは窮地に陥ったと感じていました。

なぜ、彼らは窮地に陥ったと感じたのでしょうか？

それは、彼らのプライドと恐れ、両方が大きく働いたからです。

彼らのプライドとは、ユダやベニヤミンが我々の上に立ちただかって、我々の頭上の山の上に、彼らがそびえたつのが気に入らない。

そして恐れとは、ペリシテ人でした。

しかし、神が領土を与えられるなら、もし神が、奴隷の地から救い出されたのなら、荒野を抜けて、約束の地へ、——神は、ただ滅ぼすためだけに、部族の割り当ての地に導かれたのでしょうか？——明らかに違います。

興味深い事に、ダン族に滅びをもたらしたものは唯一、——彼らの不従順です。

彼らは、自分たちの住んでいた領土を変えました。彼らは、神が彼らに与えたものを、人間が選んだものと交換しました。このように、ダン族は神に従わず、神が彼らにお与えになった領土を捨てて北へ移動し、イスラエル国境の最北へ行きました。彼らは、安心して安全、肥沃で青々とした場所を見つけたと思ったのです。

彼らは、イスラエルの滅びが襲う時、そこがまず先に破壊される場所であることを理解していませんでした。当時、安心安全で肥沃で青々として、素晴らしく平和に見えたことが結局、彼らに滅びをもたらす道、原因となりました。以上が、間違った領土へと移動した、ダン族の神への不従順に関してです。確かに、一方にペリシテ人がいて、他方にはユダ族がいるという場所では、神が守ってくださるということを信頼しなければならなかったでしょう。これこそ、神を信頼しなければならない状況です。

あなたの人生において、神の召しに従うということは、従順さが必要なだけでなく、多大な信頼と、多くの祈りが必要です。

新約聖書で、当時、使徒たちが神を信頼するしかなかった状況、祈りがなければ、大きな信仰がなければ、明らかに状況があつという間に彼らを落としたであろうことを示している箇所を二つご紹介します。第二コリント1章8～9節

- 8 兄弟たちよ。私たちがアジャヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにはいのちさえも危うくなり、
- 9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。

(第二コリント1:8～9)

すごいことです。使徒たちは、死の危険まで感じたのです。

ただ平穏な人生じゃないとか、裕福な人生でないとか、周りに良い人がいないとか、そういったことではなく、「死にそうだ！」という状況です。

その中で彼らは、自分自身を信頼するのではなく、死人さえもよみがえらせた、同じ神を信頼しました。それ

から、ヤコブの手紙 1 章 2～8 節

- 2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。
- 3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。
- 4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。
- 5 あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。
- 6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。
- 7 そういう人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。
- 8 そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。

(ヤコブ 1:2～8)

神は、純粋な信仰を求めておられます。

しかしそれは、「表明して要求！」という種類のものではありません。

青いボルボが欲しいとか、黒のベンツが欲しいとか表明して要求する！とか、神がここで言うておられる信仰とは、そういうものではありません。

ここで言うている信仰とは、神が召されたあなたの人生の中での信仰、神があなたに与えた、あなたの人生の目的に対する信仰です。

あなたの目や、あなたの心が求める、所有物に関する信仰ではありません。私たちは、これらをしっかりと理解しておかなければなりません。

次に、相続地を捨てたことと、ヤロブアムによってもたらされた、ダンの町の神殿での異国の偶像礼拝（第一列王記 12:29）という、ダンの不従順さに対する裁きは、二重でした。理解しておいてください。彼らは、元々の相続地からはるか国の北部まで移動し、その後には偽の神殿を建て、何と金の子牛を造って、それを「我々をエジプトから連れ戻した神々だ」と紹介したのです。驚きです！

まず初めに部族は、紀元前 723～722 年の間に、アッシリア人の攻撃によって敗北しました。黙示録 7 章では、神の印を押された 144,000 人の——それぞれ、イスラエルの部族名が挙げられていますが、——そこには、ダンの名はありません。

このように、ここでは二重の裁きです。

このように、今日のあなたの不従順が、後の世代にまで影響を及ぼすこともあるのです。当時、彼らは肉体的に滅ぼされましたが、しかし彼らの後の世代は、このような素晴らしい特権を奪われました。

将来、神は、イスラエルの部族・ユダヤ人たちを、世に伝道するために使われます。

大患難の時代です。

その時、私たちは皆いなくなり、こういった人たちによって伝道が行われるようになります。私は、これは物凄い特権だと思っています。

神は、私の民族、今はイエスを拒絶している人たちを、大患難時代にはイエス・キリストの福音を伝えるためのメインの道具として、使われるのです。

想像できますか？

今、イエスを受け入れない、同じイスラエルの人たちが、大患難の時、主要な伝道師となるのです。

もしその時、私がある一員だったら、そのことをとても誇りに思うでしょう。

といっても、私はその一員でないことを神に感謝していますが。

現在クリスチャンであるということは、携挙されることを意味していますからね。

それは、ここにいる皆さんも同じです。

ただ、もしかしたら、今日、あなたがイエスのことを宣べ伝えるユダヤ人、——イスラエルで会うユダヤ人も知れませんが、あるいは世界に離散しているユダヤ人も知れませんが——それがのちに、どれほどのものをもたらすか、あなたは理解していないでしょうが、あなたは、種を蒔いているのです。今日、あなたが話をしたそのユダヤ人が、大患難時代の宣教師になる可能性は、非常に高いですよ。

言っていることが分かりますか？ユダヤ人にイエスのことを伝えるのは、許されているだけではなく、必須です！

- ① まず第一に、私たちは彼らが救われることを願っていますから！
- ② それに私たちは、実際に信仰の種蒔きをしているのです。いったん、私たちがいなくなれば、彼らは悟るのです。「なんと！あの人たちが言っていたことは本当だったんだ！」その時、彼らの心で信仰が芽吹き、彼らは素晴らしい神のしもべとなるのです。

聖書は、ローマ書で、

「今、彼ら（ユダヤ人達）は、熱心に神を礼拝しているが、その熱心さは知識に基づくものではない」と伝えていきます（ローマ 10 章 2 節参照）。

彼らは、自分たちの義は、律法を守るとか、その他自分の行いから来るものだと考えています。しかしながら、聖書には、ローマ書 11 章にこうあります。

12 もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。

15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

（ローマ 11:12、11:15）

つまり、福音と、イエス・キリストによる救いに対する理解において、今は完全に盲目にされているユダヤ人が、それが繋がった瞬間、彼らが理解した瞬間、その熱心が知識と繋がるといえるのは、死者の中から生き返るようなものなのです。

皆さんはそうとは知らずに、大患難時代の主要伝道師の一人を生み出すのです。

ところが、ダンの部族は名前すら出て来ないとは、何と悲しいことでしょうか。

最も驚くべき事の一つ、歴史の中でも最も素晴らしい章の一つに加わる特権が、彼らから奪われたのです。なぜでしょう？

それは、不従順です。

ですから皆さん、従順に関して、どうか自分のことだけでなく、世代のことも考えてください。あなたの従順

から、神が生み出すことの出来るものも、あなたの不従順のために、将来の世代から奪われることになるのです。

さて、ダン部族から離れて、次に不従順について学ぶと言えば、ヨナでしょう。

ヨナは、現在のナザレ地方の出身で、聖書では“ガテ・ヘフェル”と呼ばれる町、現在のナザレの郊外にあたります。ヨナは、ガリラヤ出身のユダヤ人でした。

最初にヨナが登場するのは、第二列王記 14 章 25 節。面白いのはヨナ書で、神が、ヨナを伝道に送られました。が——神はたびたび、私たちがあまり気の進まないことをするように言われます。

考えてみてください。ヨナが「行け！」と命じられた町は？

ニネベです。

古代最大都市の一つ、こんにちのイラクにありました。

膨大な人口、こんにちの割合から見ても巨大都市です。

ヨナは、罪に満ち、死に満ち、異教の偶像礼拝に満ちた都市に送られたのです。

現代で言えば、ヨナはニューヨークに送られたようなものです。

ただ、考えてみてください。イラクです。

ヨナは、「イラクになんか行きたくない！」と思いました。

皆さんにお聞きますが、皆さんは今、イラクに行きたいと思いませんか？

ヨナも同じ気持ちでした。「本当に行きたくない！」

まず第一に異教徒で、罪人で、偶像礼拝者。

私の文化とは違うし、全てが私とも、私の性格にも合わない！

「もし行かなければならないのなら、イラクじゃなくて、スペインに行きたい！」

その気持ちは分かります。

私もスペインかイラクか、どちらと聞かれるなら、スペインですよ！

そこでヨナは、

「よし。神に見つからないように消えてしまおう！」

そう言って、当時の港町・古代ヨッパに行き、船に乗りました。

そして私たちの知っている通り、船はタルシシュに向かいました。タルシシュは、現在のスペインのあたりです。

エゼキエル書 38 章には、タルシシュの商人たちと、タルシシュの若い獅子が出て来ます（エゼキエル 38:13 参照）。ご存知の通り、タルシシュの商人たちというのは基本的に、現在の西ヨーロッパであることが確認されています。そして、西ヨーロッパから出たものとは、私はアメリカだと思っています。タルシシュの若い獅子です。

このように、人というのは東側より西側を好むことがはっきりと分かります。

こっちの文化よりも、あっちの文化。

そして、私たちが知っている通り、ヨナは違う方向に向かいます。

ここで神は、ヨナが港を歩いている時には止めませんでした。

あの船に乗る時も同様です。

しかしある時点で、ヨナは自分が大きな大きな間違いを犯したことを悟りました。

通常私たちは、自分が神に従わず、神から逃げている時、神の人からも場所からも距離を置きます。私たちは、何となく神から離れた時、神に反抗している時には、神の人の存在が実に問題なものです。また、神の家や神の場所にいることも問題になって来ます。多くの場合、罪の中に生きている人というのは、教会には行きませんし、信者である友人とは交流しません。ヨナも召しから逃げていました。神の道を歩いていないと、恥と罪悪感が生じます。

アダムとエバもそうでした。彼らは、自分たちが間違いを犯したことは分かっていた。そこへ神が来て、園を歩かれた時、彼らはどこにいましたか？

隠れていました！

といっても、神から隠れることなど出来ますか？もちろん、出来ません！

しかしそれが、恥と罪悪感のしるしです。

言っておきますが、何かを隠している時、もしあなたが何かを隠しているなら、それは90%とかではなく、100%間違いです。

ということでヨナは、主の御顔を避けて、タルシシュへ逃れようとしてます（ヨナ書1:3）。

主の御顔を避けました。

詩篇139篇7~8節に、ダビデは自身の経験からこう書いています。

- 7 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。  
私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。
- 8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、  
私がよみに床を設けても、  
そこにあなたはおられます。

（詩篇139:7~8）

神の御顔を逃れることは出来ません。

試しても良いですよ？試しに逃げてみても。



Figure 5 大魚から吐き出されたヨナ

そしてこれは、ペテロも全く同じでした。

ヨナは結局、魚の腹に行きつき、そしてその魚が…ヘブル語では、まるで嘔吐した感じです！再び、ヨッパの海岸です！想像してみてください。彼は綺麗な身なりをしてヨッパを出て、ヨッパに帰った時には、悪臭を放っている！皆さんも、世に出て戻って来た時には、こんな風に臭うのです。

神は、あなたのことを受け入れてくださいますよ。

でもあなたは、とんでもない悪臭を放ちます！

さて、神は優しく彼を正して連れ戻し、今、ヨナは従う準備が出来ました。

ヨナ書は、まとめると8語に収まります。



- ① ヨナ！（Jonah!）
- ② 行け！（Go!）
- ③ 嫌だ！（No!）
- ④ 災い！（Woe!）
- ⑤ ヨナ！（Jonah!）
- ⑥ 行け！（Go!）
- ⑦ ハイ！（Yes!）
- ⑧ あわれみ！（Grace!）

ヨナはそれを悟って、ニネベへ行きました。

そして、一人の伝道の産物として、罪深い町に、大きな素晴らしいリバイバルが起きました。これは一つの国の一つの町、一人の働きです。

ところで、旧約聖書の時代、聖霊の臨在はかなり限られていたのです。

なぜなら、誰も、聖霊の証印を押されていなかったからです。

人々の“上に”聖霊が臨みました。ギリシャ語では“epi”＝「上に」という意味の言葉です。ですから、聖霊は離れることもあったのです。

このために、ダビデは詩篇 51 篇で

11 …あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。

（詩篇 51:11b）

と神に懇願したのです。その可能性があったからです。

そしてダビデは、聖霊がなければ自分は機能しない事、何も出来ない、走れない、息も出来ないことを理解していたのです。

つまりヨナは、限られた聖霊の力で、はるばる一つの国の一つの町へ行き、神が、想像を絶するようなことをされたのです。

では次に、新約聖書の別の人物に移りましょう。

彼は、聖霊の証印を押されていました。

この人物は、一つの国の一つの町、一つの地域の制限をはるかに超えていました。

それは、ペテロです。シモン・ペテロ。ヘブル語で「シモン・ケパ」。

ペテロがヨッパを訪れたことについて、最初に伝えられているのは、使徒の働き 9 章です。ドルカス（タビタ）が死に、ルダ、ロート市からペテロが呼ばれました。ここからさほど遠くない場所で、人々は彼に遅くならないようにと懇願し、はるばるここまで来てほしいと彼を急かしました。そして、そこにいたペテロは――

39 そこでペテロは立って、いっしょに出かけた。ペテロが到着すると、彼らは屋上の間に案内した。やもめたちはみな泣きながら、彼のそばにきて、ドルカスがいっしょにいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。

40 ペテロはみなのを外に出し、ひざまずいて祈った。そしてその遺体のほうをむいて、「タビタ。起きな

さい」と言った。すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起き上がった。

41 そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとやもめたちを呼んで、生きている彼女を見せた。

42 このことがヨッパ中に知れ渡り、多くの人々が主を信じた。

43 そして、ペテロはしばらくの間、ヨッパで、皮なめしのシモンという人の家に泊まっていた。

(使徒の働き 9 : 39~43)

ここに唯一、皮なめし職人が住んでいたとして、辻褃の合う場所が見つかっています。そして、なぜ皮なめしのシモンの家としてこの場所と伝統とが結びついているのか、説明がつくのです。つまり、皮なめしとして動物の皮を扱うには、真水が必要だからです。真水は必須です。しかし、地中海のすぐ側では、それはなかなか見つかりません。ところが、ここで井戸が見つかりました。井戸は、地下の真水貯水槽へ引かれています。地下水、真水です。ご覧の通り、当初からこの特定の家が「皮なめしのシモン」の家であると指摘されていました。現在そこには、アルメニア人の Zakarian さんご一家が住んでいますが、この場所は、訪問者には閉ざされています。



Figure 8 皮なめしのシモンの家



Figure 7 上から撮影



Figure 6 シモンの家の表札

なぜかと言うと、「ここはモスクにするべきだ」と、ムスリム社会から嘆願書が出されたためです。ユダヤ教とクリスチャンにとっての聖地一つ一つに、後にムスリムがモスクを建てているのが興味深いですね。時々、モスクの存在から、そこがユダヤ教とクリスチャンの聖地であることが分かります。そしてここも、その一つです。もちろん、ヨッパはコーランには出て来ませんし、あの家も当然、コーランには出て来ません。もちろん、ここは彼らの宗教とは関係ありません。しかしここがユダヤ教とクリスチャンにとって聖地なら、もちろんそうなるのです！ということで、ここは皮なめしシモンの家です。

ペテロはそこに泊まっていて、彼は屋上にいました。時は正午。

言っておきますが、イスラエルで地中海料理を食べていると、すぐにお腹が空いてきます！良質の野菜、良質のチーズ、良質のパンを朝食に食べると、昼食までしか持ちません。そしてまたお腹が空いてきます！ペテロは腹ペコでした。彼は屋上にいて祈っていました。そして聖書によれば、彼は夢心地になりました。使徒の働き 10 章 10 節。

10 すると彼は非常に空腹を覚え、食事をしたくなった。ところが、食事の用意がされている間に、彼はうっとり夢ごちになった。

11 見ると、天が開けており、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来た。

12 その中には、地上のあらゆる種類の四つ足の動物や、はうもの、また、空の鳥などがいた。

13 そして、彼に、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい」という声が聞こえてきた。

14 しかしペテロは言った。「主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べた

「ことがありません。」

15 すると、再び声があつて、彼にこう言った。「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。」

16 こんなことが三回あつて後、その入れ物はすぐ天に引き上げられた。

(使徒の働き 10:10~16)

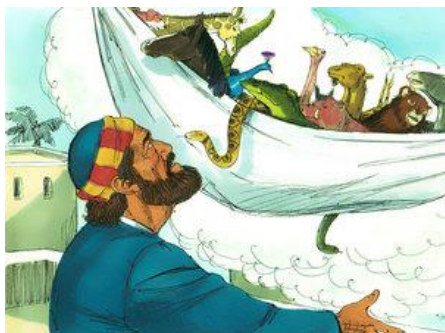


Figure 9 ペテロが見た幻

私はペテロが大好きです。

私たちの多くが、彼とよく似ていますから！

初め、私たちは信じません。そして、信じないで行動します。

それから、私たちは信じると、次は、神よりも聖になります。

神が何を求めておられるか、私たちは知っている！

だから、神が間違っている時は、我々が神を正すのだ！（笑）

見ての通り、ペテロは誰と話をしているのか、はっきりと分かっています。それがどういう事なのかは恐らく、分かっていたでしょうが。しかし彼は、宗教的な信仰や、伝統に囚われていました。

「私は、聖くない食べ物は食べません！」

愚かなペテロは、その時点ではまだ、食べ物が重要であると考えていたのです。

重要なのは、食べ物ではないのに。

私たちも、クリスチャン・信者であり、聖霊を持ちながらも、まだ、ある程度の宗教主義を人生に維持することは可能です。

そして神が、私たちに「はい」と言わせようとしていることに対して、私たちが「否」と言うことも有り得ます。

神が、私たちに経験してほしいと願っておられることを、私たちが控えてしまう時があります。といっても、奇妙な事ではありませんよ？基本的な事です。

多くの教会が、全身にタトゥーを入れている人や長髪の人、半ズボンや何かを履いた人などが教会に入ってくると、困惑します。その人にとっては、人生で初めての教会かも知れないのに、福音や愛を伝える代わりに、追い出されてしまいます。といっても、私はタトゥーやそういったものを、決して奨励はしませんよ？もう、すでにしている人の話です。その人たちが、神を求めて神の家に来て、生まれて初めてかも知れません。それなのに、彼らを追い出すとは、私たちは一体何様ですか？

私は、たびたび考えます。イエスなら、どうされるのだろうか？

イエスが来られた時、パリサイ人が非難したことの一つは何でしたか？

一緒にいるのが？——罪人だった。

ということで、ここでペテロは、驚きの啓示を受け取ります。

受け取るまでに、3回かかりました。

面白いことに、ペテロは新約聖書で初めて「矛盾」を言いました。

「主よ。それは出来ません！」

神が主でありながら、どうして神に対して「No!」と言えるのか？

これは矛盾しています。しかしペテロの中では、これは正真正銘の矛盾でした。彼は、神が語っておられると本当に信じていましたが、同時に、神が間違っていると思っていました。だから正さなければ！？もしかしたら、試されているのかもしれない！

私は立派なユダヤ人だ！そんなものには触れない！（笑）

興味深いのは、私はユダヤ人の食事の戒律（コーシェル）について研究したことがあります。天と地の創造主である神、全てを創造された方が、どうして、私が豚を食べるかどうとか、そんなことを気にされるのだろうと思って、本気で研究したのです。わたしの人生の中でも最も細かいこと、私がエビやカニ、イカとかそういうものを食べるかどうか、どうして神はそこまで気にされるのか？そして、私たちは肝心なことを見失っている、ということに気付いたのです。

これは神の民に対する、神の愛と心遣い以外のなにものでもなく、神はただ、彼らに健康でいて欲しいだけなのです。

よく考えてみると、現代の世の中で最も汚染された二つの食品群といえば、地上の豚と海底の魚介類です。豚は何でも食べます。そして甲殻類は、海の掃除機で知られます。でも、私たちは律法からは自由ですよ？ただ、私たちは、そもそも神がなぜこのような律法を私たちに与えられたのか、それを覚えておかなければなりません。

そしてペテロは、神の愛について考えませんでした。

彼は、神の心遣いについては考えませんでした。

彼は、神が、これらの菌から彼を守っておられることを考えませんでした。

彼が考えていたのは、何だったのか？

私はユダヤ人だ！こんなものに触れることは許されない！私はユダヤ人なのだから！

彼は救われていたにもかかわらず、聖霊を持っていたにもかかわらず、そのプライドが相変わらずあったのです。私たちもまた、無意識のうちにプライドが高くなったり、高慢になることもあり得ます。

以前、飛行機に乗った時に隣に座ったブラジル人の女性は、私が

「自分はユダヤ人だけどイエスを信じている」

と言うと、私にいろいろと質問し始めました。ポルトガル語で…

私は、ポルトガル語は分からなかったので、片言で会話したのですが、その時に、

「あなたは何ですか？」

と聞くと、彼女は

「ちょっと待って！あなたは福音派？プロテスタント？」

と言うので、私は言いました。

「私はユダヤ人だけど、そっち側と思ってもらって良いですよ。」

すると彼女は

「私はカトリックよ！」

だから私は

「ああ、そうなの」

と答えると、彼女は言いました。

「福音派は後から出来たの。カトリックの教会が先だったのよ。」

そこで私は考えて、そして言いました。

「最初の教会は、全員ユダヤ人だったよ。」（笑）

「いやいやいや、それはそうだけど、その後はカトリックよ！」

だから私は言いました。

「ほら、今『その後』って言いましたね？だから私も『その後』ともいえる。だけどこれは、後先の問題ではなく、だれが先かは重要じゃないんです。大事なのは、何が正しい道なのかですよ。」

面白いと思いませんか？

一方で、神は、ユダヤ人たちに「それに触れるな」と言われ、——ところで、食べ物の話ですよ？——しかしペテロの前に、敷布のようなものを持って来られた時には

「さあ、ほふって食べなさい」

と言われました。

同じ神です。

しかし、私たちには、新約聖書の中で啓示が与えられています。

その天から下って来たものは、食べ物を意味していたのでは全くありません！

健康に良いとか、悪いとか、だから触れるとか、触れるなとか、そういうことを意味していたのではありません。

神から出たものであれば？——良いものである！

聖書には、ギリシャ料理のレストランからそれらが出て来た、とは書いていません（笑）。聖書には、その白い敷布が天から下って来た、とあります。

神がそれを送られたのです。

ちなみにペテロは、それを分かっていたよ？

神が「きよい」と言ったものを、私たちが「きよくない」と言うことは出来ません。

すごいですね。

そこで、皆さんに知っていて欲しいのは、私の知る限り、今、私の前に座っておられる皆さんのほとんどは、そっちのグループに入るでしょう。

ペテロは「きよくない」と見ていました。

皆さんはピチピチ跳ねるエビですよ！（笑）

皆さんは凶暴で…ヌルヌルした…気持ち悪い…

私はただ、当時のユダヤ人がどういうイメージで見ていたのかを説明しようとしているのです。皆さんのことを考える時ですよ？

ユダヤ人は、異邦人の家には、足を踏み入れませんでした。



Figure 10 ヨッパとカイザリヤの位置関係

ところで、それには正しい目的がたくさんあったのです。

なぜなら、異教の神々を礼拝していた人たちは、必ずいつも、異教の神々にささげた物を食べていたからです。それは確かに、ある意味汚れていたのです。

だからペテロは、ようやく理解した時、コルネリオが送った兵士たちと一緒に、歩いて一日半から二日の道のり（書記注：約 50 km）を、はるばるカイザリヤまで行ったのです（使徒の働き 10:21~48 参照）。

そして、彼が家の中に入った時にまず何が起こったかといえば、皆がひれ伏して、ペテロを拝み始めました。そこで彼は思いました。

「なんてこった！ 思ってた通りだ！ これがイヤだったんだ！」

そして、

「お立ちなさい。私もひとりの人間です」

と言いました。

異教の世界では、目に見えない、遍在、全知全能の神には慣れていませんから。彼らは、彫刻や人物を見るのに慣れていて、目に見えるものが必要だったのです。

そこへペテロが入って行くと…

確かに彼は、神の使者かも知れませんが、今の人々が、(ローマ)法王に対して行なっていることを見てください。同じ思考です。人間を拝む異教徒の思考が、今日の今日まで存在します。そして世の中では、それをクリスチャンと呼んでいます。

ここから一つのメッセージをもって、まとめに入ります。

ペテロの従順がカイザリヤで、最初の非ユダヤ人一家を主に導きました。

イタリア人一家です。聖書には、コルネリオがイタリア隊の隊長であったと書いてあります。パスタを食べる人たちです。もしあなたがパスタを嫌いなら、それはあなたの問題ですよ？(笑)ともかく、コルネリオは異邦人でした。神を愛していましたが、どうすれば救われるのか、全く分からなかったのです。そこへ、神が彼の声を聞かれ、神が彼を見られました。確かに、彼はユダヤ人ではありませんでした。しかし神は、彼のことを気にかけておられたのです。そして神は、彼に目を留め、彼を見ました。それから神は、夢の中でコルネリオに言われました。

「コルネリオ。わたしはあなたの言葉を聞いた。わたしは、あなたの祈りと施しを見ている。わたしは、あなたの心を知っている。さあ今、ヨッパに人をやって、シモンという人を招きなさい。彼の名はペテロと呼ばれています。この人は、皮なめしのシモンという人の家に泊まっていますが、その家は海辺にあります。彼があなたに福音を伝えます。」

そこでペテロは——私が想像するに、彼はこんな風にしたと思います。



Figure 11 こんな風に！

「分かりました。私がしなければならぬなら、やりますよ！」

そして彼は、はるばる歩いて行って、異邦人の家に足を踏み入れ、そこで福音を伝えました。すると全員が救われ、全員が聖霊を受けました。

それでどうなったかといえば、ペテロは啞然としたのです。

こんなのは、見たことがなかったからです！

ここで、念頭に置いておいてください。

彼は、人が死からよみがえるのを見ているのです。

盲目だった人が見えるようになるのも、彼は目撃しています。

彼は、物凄い事を見て来ているのです。

しかし彼は、異邦人が主を受け入れるのは、一度も見たことがありませんでした。

あの時代、異邦人が、イエシュアを、イエスを信じるというのは物凄い事、誰も見たことがなかったのです！信じられないことでした！

今は、それが逆になっているのが、とても残念です。

現代では、ユダヤ人がイエシュアを信じると、「ワーオ！」となります。

しかし当時、メシアを信じたのは全員がユダヤ人だったのです。そして彼らが、それを分かち合いました。こ

ここに注目してください。彼らは霊的な事を、異邦人と分かち合ったのです。

皆さんにお伝えしたいのは、これが多くの人にとって謎なのです。

しかしパウロは、ローマ書 11 章で、神の計画の中、また神の目にはユダヤ人が重要であることを告げているだけでなく、ローマ書 15 章 27 節で、パウロは非常に興味深いことを伝えています。パウロは、25 節でこのように告げています。

25 ですが、今は、聖徒たちに奉仕するためにエルサレムへ行こうとしています。

(ローマ 15:25)

彼がエルサレムに向かうのは、ユダヤ人の中の信者、聖徒たちに奉仕するためです。ユダヤ人信者です。それから、彼の言葉を聞いてください。

26 それは、マケドニヤとアカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために醸金することにしたからです。

(ローマ 15:26)

次に、27 節を見てください。皆さんに謎、秘密をお伝えします。というよりも、奥義です。

27 彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです。

(ローマ 15:27)

ちなみに、別の訳では、このように言っています。

「異邦人は、ユダヤ人から霊的なものを分けてもらったのだから、異邦人は彼らと物質的なものを分けなければならない。」

ペテロは、分かち合いました。彼は言いました。

6 …「金銀は私にはない。しかし、私にあるもの（イエス・キリスト）を上げよう。…」

(使徒の働き 3:6)

彼は、金持ちではありませんでした。

魂を救うために、お金持ちである必要はありません。

救うのは、神です。

私たちがすべきなのは、ただ、分かち合うだけです。

そしてペテロがしたことは、ただ、神の召しに従順であっただけです。

その召しは、非常に不都合なものでした。

非正統で、彼の目には非常に奇妙に見えました。

しかしペテロは、救いのメッセージをもって、最も変わった不都合な所、彼の領域ではない場所に行き、そこで分かち合いました。

彼が、最も低く見ていた人たちと。

覚えていてください。そこから福音が広がったのです。

カイザリヤの港から、小アジアに福音が押し出され、その後西ヨーロッパ、それから全世界へ。まさにここ、古代ヨッパの町のあの屋上で、ひとりの男の従順によって生み出された信仰は、こんにち、世界中で、数えきれないほどの人たちが信じています。一つの町とか、一つの国、大陸でさえ、一ヶ所に制限されることはありませんでした。

ということで、ダン族を見て、不従順はあなた自身を傷つけるだけでなく、来たる世代にも損害を与えることが分かりました。

それからヨナの話、確実にペテロの人生の話を見て、従順は、いけにえにまさを学びました。

そこで皆さんに、明確にお伝えしておきたいと思います。

神は、宗教熱心な人を求めてはおられません。

神は「私は、これをしてほしくない。あれもしない。神様、見てください。私は、あれを我慢してこんなことをしました」というような人は求めておられないのです。

神が求めておられるのは、ただ神に従う人。それだけです。

よく考えてみれば、とても単純な事です。

大したことをする必要はありません。

ただ、従うだけ。

しかし面白いと思いませんか？

人間にとって、最も難しいのは、従うことです。

創世記3章に始まって、世に罪が入ったのは、不従順のためです。

それが今、十字架の上で血を流されたイエス・キリストを通して、私たちはその従順を得ることが出来るのです。私たちは、不従順を捨てる事が出来る。

私たちは今や、新しく造られた者ですから。

今、私たちには、新しい心、新しい思考、新しい理解が与えられているのです。

今、私たちは神の民です。彼のことをアッバ、父と呼ぶことが出来、最も聖なる場所に直接入ることが出来るのです。

今や私たちは、神の御言葉を理解します。

私たちは神の御心を理解し、神の愛を理解します。

それから私たちは神の恵みを理解します。

そして、神の愛、恵み、御心を理解すると、神があなたを愛したのは、あなたの中に何かがあるためではないことが分かります。これは、無償の賜物なのだ、と。

そして、たとえ世界で一番宗教的な人間になったとしても、それによって神の愛がさらに増えることはない、ということも理解します。

神は、すでに、あなたのために、ひとり子を十字架で死ぬために送られたほどに、あなたを愛しておられるのです。

そこで、あなたも理解するでしょう。

「ちょっと待って！つまり、すべて私ではなく、彼なのか？」

携拳が起こる前の、この残されたわずかな時間に、唯一私がすべき事は…



皆さん、携挙はすぐそこまで迫っていますよ？

ただ、従うこと。

神には、いけにえは必要ありません。

神には、偽の断食は必要ありません。

本当の断食とは、何でしょう？

イザヤが書いています。

捕らわれ人を解放するために？

——どうすれば、捕らわれ人が自由になりますか？

もし、子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは？

36 …ほんとうに自由なのです。

(ヨハネ 8:36)

それが唯一、私たちがこの世で得られる自由です。

ですから、皆さんがイエスを人々に与え、彼らを自由にすれば、皆さんも神の召しに完全に従うことになり  
ます。

いったん、信者になって後、福音を伝えるという使命が与えられていない人は、この地球上で誰一人としてい  
ないと思います。

「私にそんな能力があるとは思わない！

私には、そんな賜物があるとは思わない！

私には、そんな時間がない！

私には、そんなお金はない！

私には、そんな態度は出来ない！」

皆さん、時が来れば、神は、私たち全員に聞かれます。

「わたしがあなたに与えた時間、資源、それと賜物を使って、あなたは何をしたのか？」

私たちの一人一人に、賜物、資源、時間が与えられています。

皆さんに言うておきます。

フェイスブックをしている時間があるなら、伝道する時間があります。

テレビを観ている時間があるなら、きっと伝道する時間もあるでしょう。

あなたに舌、唇、耳があるのなら、多分あなたは話せるでしょう。もし、話が出来ないのなら…ところで、あ  
る人が言っていました、

「私たちは、常に福音を伝えるべきだ。しかし必要な時にだけ、言葉を使え。」

福音を伝えるのは、いつも言葉によるとは限りません。

事実、キリストが生きられたように、生きることです。

彼の愛、あわれみを、あなたの人生を通して反映するのです。

そうすれば、人は聞いてきます。あなたに惹きつけられます。

ということで、今日、ここヨッパの中心で、皆さんを励ましたいと思います。

少なくとも、4000年の歴史を持つ町、ヨッパの真ん中で、私たちは従順について学びました。私たち一人一  
人の人生に与えられた、召しに対する考え、その応答を、主が祝福し、導いてくださいますように。

覚えていてください。

皆さんも宗教熱心であるかも知れません。

しかし、神が、あなたのことを二度三度呼ばれば、あなたも考え方を変えることは可能です。そして、いったん理解したなら、それを行動に移してください。

時に、あなたにはおかしなことに聞こえるかも知れません。

「神様？あの人に話しかけると？本当に？」

「そうだ。」

「彼女と話しなさい。」

「彼に話しかけなさい。」

皆さん、信じないでしょうが、ただあなたが話しかけさえすれば、たくさんの人が心を開きます。人々は、物凄く孤独です。

私のところには、毎日のようにたくさんのメッセージが届きます。

フェイスブック、メール、他のソーシャルメディアを通して。

人々は孤独で、絶望していて、神の愛を知りたがっています。

彼らに対する、神のご計画を知りたがっています。

しかし、皆にただ必要なのは、御言葉に浸り、主を信頼して、主に聞き従うことです。

あなたが、自分の人生をささげない限り、あなたが、上から生まれなければ、新生しなければ、最初の誕生には何の意味もありません。

誰もが、一度生まれます。重要なのは、二度目の誕生です。

そして、二度目の誕生は、誰もが経験するものではありません。

一度目の死は、皆が——ほとんどの人が経験します。

私たちが逃れたいのは、二度目の死です。

つまり私たちは、二度目の誕生が必要で、そうすれば、二度目の死を逃れられるのです。

そしてそのためには、私たちは神に応え、聞き従い、信じ、神について行かなければなりません。よく考えれば、それは大して難しいことではありません。ただへりくだり、心を柔らかくするだけです。そうすれば、私たちに彼の声が聞こえます。

祈りましょう。

お父様。今日の、従順の学びに感謝します。

ダン部族からは、不従順についてと、それに伴う結果を学び、それから、ヨナとペテロの人生からも学びました。

きっと、ヨナの影響があったために、ペテロは「ヨナの子」と呼ばれたのでしょう。

お父様。この素晴らしい二人の男の人生に感謝します。

彼らをもたらした違いに感謝します。

お父様。感謝します。あなたがいつも気にかけておられるのは、犠牲ではなく、宗教でもなく、伝統でもなく、私たちがどうであるかではなく、あなたがどういってお方であるかに、私たちが注目することです。

従順は、いけにえにまさります。

お父様、ありがとうございます。

今朝、ヨッパの町の真ん中より、あなたを祝福します。

誰でも、このメッセージを聴く人たち、今日ここにいる人たちの中でも、家でこの動画を観る人たちでも、お父様、あなたの道を真摯に求める全ての人に、あなたがご自身を現わしてください。

彼らが、キリストを理解し、唯一キリストによってのみ、御霊によって新しく生まれることで、彼らも新しいいのち、新しい心、新しい思想を得る事が出来、神の御言葉を聞くことが出来ると、理解しますように。

あなたの御言葉が、もはや本の中のものではなく、預言者エレミヤが31章で言ったように、彼らの心の板に書きしるされますように（書記注：エレミヤ書31:33参照）。

お父様。聖霊を感謝します。慰め手を感謝します。

また、私たちがあなたに従うなら、私たちに与えられている素晴らしい約束に感謝します。

この全てを、十字架に至るまで、あなたに聞き従った方、わたしの願いではなく、あなたの御心が成されるようにと祈った方の御名によって、お祈りします。

私たちも今日、ここ、ヨッパの中心より言いたいと思います。

私たちの思いではなく、あなたの御心がなされますように。

イエシュア、イエスの御名によって祈ります。

全ての神の民は言います。

アーメン。

---

#### 【写真出典一覧】

地中海に面した美しい港町ヨッパ：動画より

テルアビブ・ヨッパの公式ウェブサイト：<https://www.tel-aviv.gov.il/en/Pages/HomePage.aspx>

ルーベンス画「楽園のアダムとイブ」：1615年制作 オランダ マウリッツハイス美術館蔵

ダン族の割り当て地：Wikipedia “Tribe of Dan”

大魚から吐き出されたヨナ：Eriko 画

皮なめしのシモンの家、上から撮影、シモンの家の表札：動画より

ペテロが見た幻：Free Bible Images

ヨッパとカイザリヤの位置関係：REPONSIBLE TRAVEL ISRAEL MAP & HIGHLIGHTS 矢印と日本語書き込みは書記

こんな風に！：動画より